

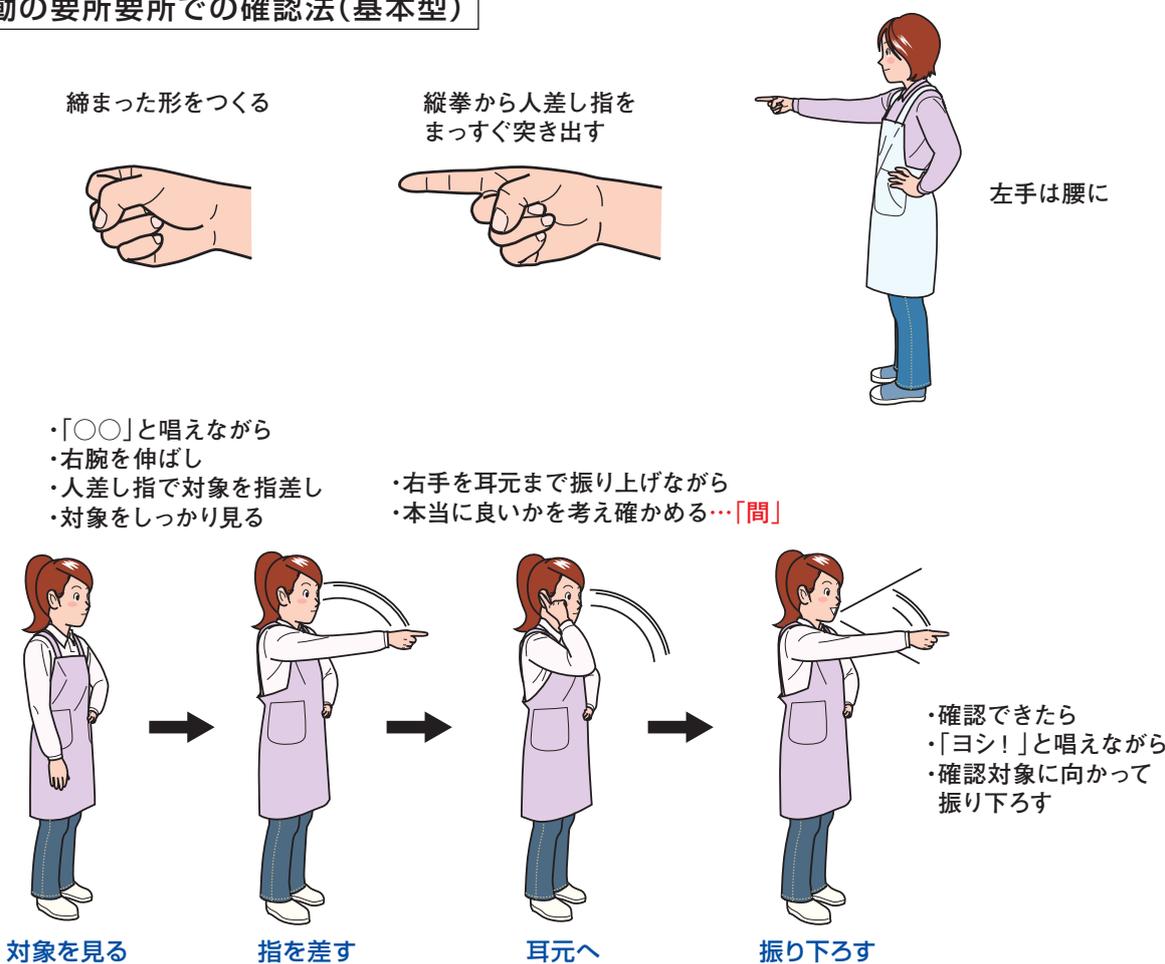
第5 KYTの手法

1 指差し呼称で安全確認

事故・災害が発生する原因に人間特性の確認不足が関わっていることから、行動の要所要所で一人ひとりが行う「指差し呼称（確認行動）」は業務を成功させるための重要な手法です。行動の要所要所（危険のポイント、誤操作のポイント）で確認すべきことを「〇〇ヨシ！」と、対象を見つめ、しっかり指差しして、はっきりした声で呼称して確認します。

社会福祉施設においては、利用者の前で大きな声や動作ができない場合もあります。それでも、しっかり確認することは必要ですから、声を出さずに手で触れて確認するなど状況に合った方法を工夫しましょう。

行動の要所要所での確認法（基本型）



	押し誤り% (100分率)	
何もしない		2.38 (100)
呼称だけ		1.0 (42)
指差しだけ		0.75 (32)
指差し呼称		0.38 (16)

平成6年(財)鉄道総合技術研究所

図3-3 指差し呼称の効果実験結果

2 指差し唱和、タッチ・アンド・コールで一体感・連帯感づくり

指差し唱和は、全員でスローガンなどの対象を指差し、唱和することで仲間同士の一体感・連帯感を高める手法です。一般的に、朝礼や終礼時にスローガンを唱和したり、KYTの確認項目を唱和して実行を誓い合います。

タッチ・アンド・コールは指差し唱和の一種で、メンバー全員で手を重ね合わせたりして触れ合いながら行います。仕事にかかる前やKYTの締めくくりなどで実施します。全員のスキンシップで行うこの手法は、メンバーの一体感・連帯感を盛り上げ、チームワークづくりに役立つ手法です。

いずれも、単独の安全確認行動として行う「指差し呼称」とはねらいが異なります。

指差し唱和

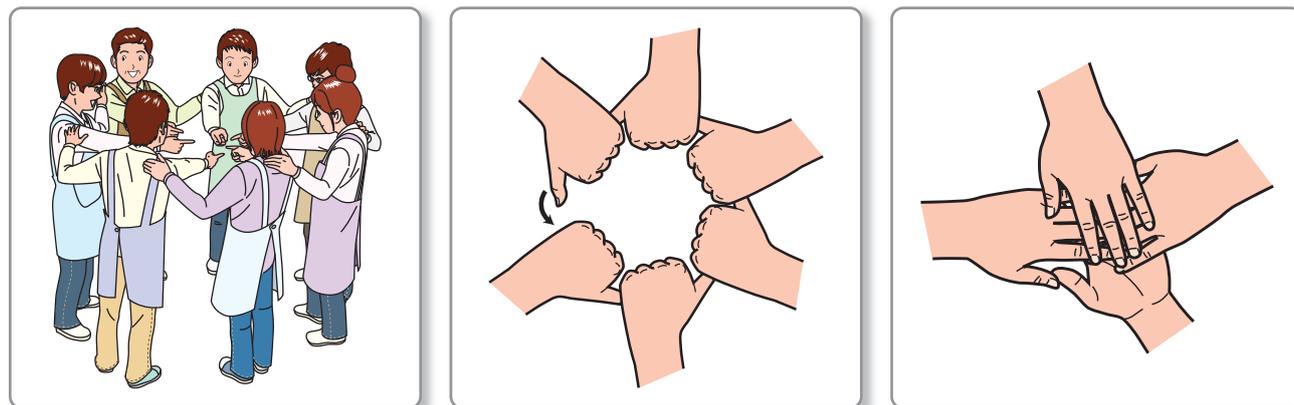


- ・左手は腰に
- ・右手で対象を指差す

- ・リーダーは、一文字一文字、目と指で追いながら読み上げる
- ・メンバーは、リーダーが読み上げている文字を声に出さずに目と指で追う

- ・リーダーの「ヨシッ!」を合図に
- ・全員で声をそろえて唱和する

タッチ・アンド・コール(例)



①タッチ型

②リング型

③手重ね型

3 健康確認と適切な措置

一人ひとりの健康状態の乱れがヒューマンエラーを引き起こし、事故・災害へつながることがあります。これを防ぐには、特に始業時のミーティングで、管理者・責任者による部下一人ひとりへの“目配り・気配り”が欠かせません。このため、一人ひとりをよく観察し、具体的に問いかけて健康状態を把握し、適切に措置するための手法が健康確認です。



表3-2 健康確認項目

健康自己チェック
<ul style="list-style-type: none"> ● 頭痛 ● めまい ● 発熱 ● 手足のしびれ ● 腰の痛み ● 頭痛 ● 腹痛 ● 風邪の症状 など
健康観察
<ul style="list-style-type: none"> ● 姿勢はシャンとしているか ● 動作はキビキビしているか ● 顔・表情はイキイキしているか ● 目はキリッと澄んでいるか ● 会話はハキハキしているか
健康問いかけ
<ul style="list-style-type: none"> ● 目が赤いけどどうかしましたか？ ● よく眠れましたか？ ● だるくはないですか？ ● 食事はおいしいですか？ ● 熱はありますか？ など
親が子を思う気持ちで具体的に問いかけましょう